

2006年 どくだみ荘 福祉農園報告書

はじめに

どくだみ荘の農園活動は、日頃、身体に障害があるが故に、なかなか外に出る機会がない利用者さんに外の空気に触れてもらうために始めたものです。車椅子でも農園に入り、種を撒くことができるよう今年、畝の数を従来の半分に、通路を確保し、その道を整え、そのメンテナンスを定期的に行うなど、障害を持つ利用者さんたちが作物を育て、収穫の喜びを感じられるように環境を整備してきました。そして、それを維持しつつも、多くの利用者さんが農園作業に関われる様、ボランティアの方々と一緒に努めてきたつもりでしたが、特に今年実現できないことが多々ありました。

2006年福祉農園活動報告

作付け一覧表に沿った作業計画

昨年の実績に沿った作付け一覧表を作成。それに基づき、その作物にあった土づくり、作付けを実施しようと計画しましたが、人員不足などの諸事情により、土作り、作付けができない結果となりました。結果は（表・1）のとおりです

（表・1） 平成18年度どくだみ荘福祉農園作付け一覧表

NO	種別	作付け予定	備考（結果）
1	そら豆	2月中旬	実施できず
2	じゃがいも	3月上旬実施	良好 きたあかり・メークイン・男爵の3種類を実施
3	ねぎ	3月中旬	実施できず
4	キャベツ	3月中旬	実施できず
5	にんじん	3月末	実施できず
6	べんり菜	3月末実施	良好
7	ブロッコリー	3月末実施	良好。ただし、青虫が多い。
8	ほうれんそう	3月末実施	良好
9	大根	4月上旬実施	良好
10	とんもろこし	4月中旬	実施できず
11	枝豆	5月上旬	実施できず
12	シシトー・ゴーヤ	5月上旬	実施できず
13	かぼちゃ	5月上旬	実施できず
14	にんじん・おくら	5月中旬	実施できず
15	さといも	5月中旬	実施できず

16	さつまいも	5月下旬～ 6月上旬	実施できず
17	インゲン	4月上旬実施	良好。大量に出来る
18	きゅうり	4月上旬実施	良好。大量に出来るが、カラスに大半食べられる。
19	トマト	4月上旬実施	全体的に皮がかたく、不良。カラスに大半食べられる。
20	じゃがいも（赤い種類）	8月下旬	実施できず
21	ニンニク	昨年から	良好
22	ブロッコリー	9月上旬	実施できず
23	たまねぎ	昨年から	良好
24	にんじん	9月中旬	実施できず
25	ミニ大根	9月下旬	実施できず
26	小松菜	10月中旬実施	良好。大きくならないため、年内刈り取りを行なう。
27	ほうれん草	10月中旬実施	良好。大きくならないため、年内刈り取りを行なう。
28	時なしだいこん	10月中旬実施	良好
29	サラダ菜	10月中旬実施	不良。作付けの時期が遅かったためか、小さい。
30	たまねぎ	10月中旬実施	年越し中
31	にんにく	11月上旬	実施できず
32	たまねぎ（マルチ）	10月中旬実施	年越し中

表のとおり、昨年と比べ、半数以上実施できなかった。作付け実施したものに関しては、トマトをのぞき、概ね良好であった。

● 反省点

今年度は、担当の職員ボランティアの諸事情により人員が減り、畑の雑草とりに追われ、5月上旬から10月中旬にかけて、計画的な作付けを中心とする農園作業をスムーズに行うことができませんでした。10月中旬から、他団体の協力を得て、やっと畑らしいかたちになったのが現状で、そこからの作付けをおこなったので、毎年行なっていたさつまいも・さといも・じゃがいも（2回目）が実施できませんでした。

● 今年度実施できたこと

- ① 車椅子の方、障害のある方も畑に入り、作物にふれ、収穫を行う事ができるよう、ボランティアの方と相談をし、24列あった畝を12列に減らし、畝と畝の間を90センチほど広げました。
- ② 昨年度は、利用者さんと一緒に農作業を行う事が出来ませんでした。今年度は雑草とりを中心に利用者さんと一緒に作業を行う事が出来ました。



収穫良好であった作物（たまねぎ・きゅうり・だいこん・ブロッコリー・にんにく・など）



（通路の幅をひろげました）



（一緒に作業をした利用者の宮沢さんと橋本さん）

2007年の福祉農園活動目標

- ① 作付け一覧表の作成。それに沿った作付けの実施。
今年も作付け一覧表を作成。それに沿った作付けを昨年よりも計画的にすすめていきたいと思ひます。そのなかで昨年作付けをしなかつたピーマン、水菜、おくらなどにもチャレンジしたいと思ひています。
- ② 人員が少ないなかでも効率的な作付けを行なう。
昨年、当施設の農園作業において、その担い手となるボランティアの方が諸事情により、3名から1名に減りました。それを踏まえ、身体状況、作付けによる経験、知識不足から作付け計画・実施を利用者さん主体でできない現状のなか、当施設の職員一名とボランティアさん一名で作業計画・実施を行なわなくてはなりません。そのためにも、来年度は、比較的収穫しやすく、利用者さんもお手伝いできる根菜類を中心に作業計画を立て実施したいと思ひています。
- ③ これからの「どくだみ荘・福祉農園」のために
現状、農園担当の職員とボランティアにて農園作業をすすめています、最終的には、作付け計画・実施ともども利用者さんが主体となるような農園作業になることが理想です。今年度は、一部ですが利用者さんと一緒に作業を行う事ができました。次年度で達成できることではありませんが、少しでも利用者さんが主体となるような作業ができるような「はしわたし」ができるようにしていきたいと思ひています。

さいごに

今年度は、農園作業の担い手として活動して頂いたボランティアの方が参加できなくなり、当初計画していた作付けも半分以上できないというのが現実でした。特に、秋野菜の作付けをしなくてはならない8月から10月にかけては、いろいろな行事も重なり、農園作業に携わることができず、畑は荒れ放題でした。そのなかで、風の学校を中心とした農園協議会のみなさまには、雑草とりをはじめとする土づくりまで行っていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。そして、こんな事態にも関わらず農園作業に携わってくれたボランティアの上原さん、雑草とりを手伝ってくれた利用者の橋本さん、宮沢さんには本当に感謝しています。次年度は、不測の事態にも対応できる計画づくりを心がけ実施していきたいと思っています。これからもご迷惑をかけることがあると思いますが宜しくお願いします。

